

□議員名：杉本 保喜

1 防災体制について

| | |
|----|--|
| 論点 | 29年度山陽小野田市防災訓練が実施されて、その成果と改善点はどうか。 |
| 回答 | 菊川活断層の活動により震度7の地震が発生したという想定の下に市役所において、180件の状況付与のもとに机上訓練を実施した。成果は、危機管理意識の向上したこと、人員体制や他の関係機関との連携方法の見直しや普段の現場、機材等の確認などの平常時の備えの大切さを再認識した。事後研究の機会を設定し、検討・協議して改善を図る。 |

| | |
|----|---|
| 論点 | 民間に対する災害時支援協定の現状と今後の連携等の維持向上策はどうか。 |
| 回答 | 本市では主に建設関係、避難所関係及び物資関係等の分野について現在36団体と協定、覚書を締結している。しかし、現状の確認が不確実なものもあり、今後は最低年に一度は連携の把握を実施する。また、連係において、訓練に参加していただき、市民の安全安心のために協働して取り組みたい。 |

| | |
|----|--|
| 論点 | 府内の防災組織の強化と民間組織の連携体制の強化策はどうか。 |
| 回答 | 補助金の交付だけでなく、出前講座等を通じて要支援者への対応指導や支援の協力をする。社協とはボランティアセンター設置・運営等に関する協定を締結し、後日災害時ボランティアセンター運営協議会を開催した。防災士団体とは今後も意見交換会を開催し、その総会にも参加したい。 |

| | |
|----|--|
| 論点 | 山陽小野田市災害情報管理システムは、緊急事態に対応できる状況にあるのか。 |
| 回答 | 当市に独自のシステムはないが、4月から県内各市町の共用使用が可能な県総合防災情報システムの運用が開始され、本市もその活用 |

| | |
|--|--|
| | が可能となった。これは多くの有効な機能があり、本市に適応できるものを研究して活用していく予定である。 |
|--|--|

2 小野田駅前地区再生整備について

| | |
|----|---|
| 論点 | 本計画の進捗状況を問う。 |
| 回答 | 小野田駅東側地区の市道や公園などのインフラ整備で土地活用を図り人口定住を進めることや駅前広場の整備で活気を再生することを目的に始めており、現在は建物調査が終了した順から用地補償交渉を始めており了解を頂きつつあるところであり、ほぼ順調に進んでいる。 |

| | |
|----|--|
| 論点 | 南北自由通路は、地域での南北の交流、利便性の向上において重要なが、防災上でも重要なものと考えるが、どうか。 |
| 回答 | 本件は、市の合併前からも検討・研究され、都市再生整備計画策定時の地元説明会でも要望を聞いている。今回の計画に含まれていないが、内容、整備の時期や費用対効果等について今後の研究が必要であろう。連絡通路と橋上駅とのあり方等は、今後も研究をしていく。 |

3 観光・交流の振興について

| | |
|----|---|
| 論点 | 第2次総合計画において、観光アクションプランの行程は、どのように生かされるのか。 |
| 回答 | 観光・交流の振興基本事業での情報発信・誘客体制の強化・充実の中で、特にアクションプランで取り上げている観光ボランティアの育成と整合性を図りながら推進していく。総合計画を具現化する中で地域振興部を設け、観光部門も包含させて情報の収集と発信の業務を持たせて、観光行政の流れを変えていきたい。 |

| | |
|----|--|
| 論点 | おもてなしサポーターをはじめ、市民の活動が本施策にどのように反映されるのか。 |
| 回答 | 市民の参画は観光客の受け入れ体制の充実を図る上で必要不可欠。おもてなしサポーターやボランティアガイドの育成にとらわれず市 |

民が活躍できる場を提供し、魅力的な観光地域づくりに取り組んでいく。おもてなしサポートは現在11人（10事業所）であるが、公募をして33年度には100人を得たい。また、観光協会を支援しながら観光ボランティアの養成を考えている。他市の観光支援組織団体に比べ当市は見劣りしているので検討していく。